

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/09/26号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

続くドル高にゴールド大きく下落

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



非常に多くのことが起こった一週間となりました。まず前週に1680ドルのサポートを割り込み、ストップロスの売りが出て弱まっていた地合いに、FOMCにて予想通りの0.75%の利上げとなりました。ゴールドの反応はポジティブなもので1687ドルへ上昇しましたが、最終的にFRB理事たちの見込みは来年にFF Rateが4.5%にまで上昇するというものであり、これを受けて長期金利はさらに上昇、金曜日には一時3.8%をつけ、ドルインデックスは113と2002年以来のレベルにまで上昇しました。まさにドル一勝状態となり、株、債券、暗号資産、そして貴金属もすべてが売られるという形になりました。ゴールドは1650ドルをも割り込み1640ドル台まで下げて終わり、先週も書いた通り、年末にかけては厳しい情勢の中でのマーケットとなりそうです。これに加えて木曜日には日銀がドル売り介入を実施。146円手前まで進んでいた円安が一瞬にして140円台まで戻しました。しかし、金利差というファンダメンタルズからの円安トレンドを力づくの介入により永久的に変えることはできません。金曜日は日本の祝日でしたが、円はじわじわと143円台まで売られて終わりました。円建てゴールドは、ドル建てゴールドの大きな下落が効いて、一週間では150円ほどの下げになりました。ただドル高円安の流れはおそらく今後も変わらず、為替ではサポートされそうです。そうなるとやはりドル建てゴールドがどうなるかが、もっと大きな注目点になります。ここから年末にかけて、FRBの利上げ姿勢が確固たるものであるだけに、ロシア絡みの地政学的なさらなる緊張やインフレの急ブレーキ的な要因がない限り下値をトライする可能性が高いと思います。とりあえずの下値めどは1600ドルでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

ゴールド以外の貴金属-PGM13

「PGM価格の動き」

「パラジウム」

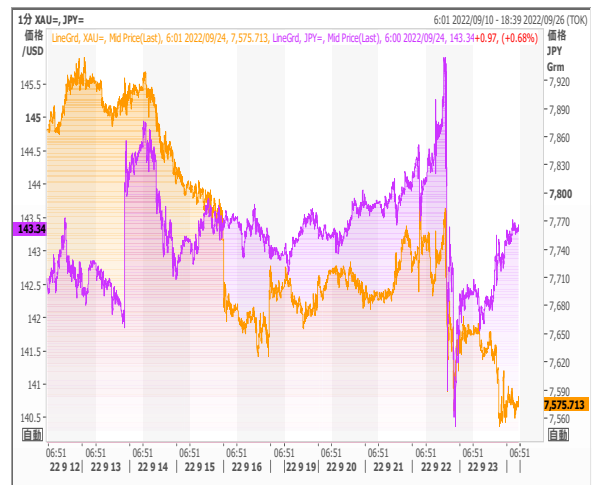
パラジウムは現在、貴金属四品の中でもっとも高いメタルになっています。2022年3月には3200ドルという歴史的な高値をつけました。パラジウムとプラチナは同じPGMながら重要な違いがあります。まずその一つは、現在の値動きの最大の背景になっているガソリン車の触媒に使われている、ということです。現在でもまだまだガソリン車の占める割合が自動車の中では圧倒的に高く、パラジウムの需要の8割がガソリン車の触媒なのです。そのため、自動車の販売数がパラジウムにとっては圧倒的に重要な需要となります。そのガソリン車にプラチナではなくパラジウムが採用されたのは、まず、パラジウムがプラチナよりも全然安価であったということです。そしてディーゼル車では触媒性能が高いプラチナでないと触媒としての役割が果たせなかったのが、ガソリン車では触媒性能が劣るが安いパラジウムで十分であったことが上げられます。世の中で売れる自動車の大部分がガソリン車であったがために、パラジウムの触媒需要は伸び続け、結果的にパラジウムの価格はプラチナの価格を大きく上回るようになったのです。第二に、生産国はプラチナの場合は8割が南アでしたが、パラジウムはロシアと南アが4割ずつの生産シェアがあり、ロシアの影響が大きくなっています。3月の歴史的な高値の背景はロシアのウクライナ侵攻により、西側の経済制裁により、今後のロシアからのパラジウム供給不安ということがありました。自動車触媒とロシアがパラジウムの二大相場攪乱要因と言ってよいでしょう。パンデミックによる自動車生産と販売の減少は弱材料、ロシアと西側諸国との関係悪化は強材料です。現在はその二つの要因の綱引き状態にあると言えます。長期的には環境規制が厳しくなればなるほど、一台あたりの触媒に使われるパラジウム使用量は増えます。しかし、現在の内燃機関エンジンからEVやFCVに自動車自体が代替されていくとすれば、パラジウムは必要なくなります。どちらにも大きく動く可能性があるのがパラジウムです。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

